



2021年12月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2021年10月22日

上場会社名 B-R サーティワン アイスクリーム株式会社

上場取引所 東

コード番号 2268 URL <https://www.31ice.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) ジョン・キム

問合せ先責任者 (役職名) 専務執行役員 最高財務責任者 兼 管理本部長 (氏名) 白井 康平

TEL 03-3449-0331

四半期報告書提出予定日 2021年11月5日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年12月期第3四半期の業績(2021年1月1日～2021年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期第3四半期	14,224	7.3	1,224	100.2	1,304	114.7	823	164.7
2020年12月期第3四半期	13,250	9.0	611	109.7	607	69.3	310	74.8

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年12月期第3四半期	85.44	
2020年12月期第3四半期	32.27	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年12月期第3四半期	18,165	10,237	56.4
2020年12月期	17,407	9,752	56.0

(参考)自己資本 2021年12月期第3四半期 10,237百万円 2020年12月期 9,752百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年12月期		10.00		20.00	30.00
2021年12月期		15.00			
2021年12月期(予想)				15.00	30.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年12月期の業績予想(2021年1月1日～2021年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,750	6.5	930	22.8	1,030	34.0	640	44.7	66.42

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 有

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年12月期3Q	9,644,554 株	2020年12月期	9,644,554 株
期末自己株式数	2021年12月期3Q	8,647 株	2020年12月期	8,647 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年12月期3Q	9,635,907 株	2020年12月期3Q	9,635,925 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(会計方針の変更)	8
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間（2021年1月～9月）における日本国内の経済環境は、依然として新型コロナウイルス感染症の影響により、企業収益や景況感の悪化、個人消費の減退やインバウンド需要消失の長期化など厳しい状況が続いております。2020年度末に再び感染が拡大し、2021年1月に11都府県を対象とする緊急事態宣言が再発令され、その後も変異型ウイルスが発生するなどもあり緊急事態宣言の再発出やエリア拡大、期間延長もありました。医療関係者や高齢者からワクチン接種が始まり、ワクチン接種率は国民全体の50%を超えましたが、未だ先行きが見えない状況が続いております。

世界経済においては、新型コロナウイルス感染症は世界的な広がりをみせるとともに、中国や欧米においてはワクチン接種が進み経済活動が回復傾向にある国もでてきました。

外食業界におきましては、新型コロナウイルスの影響により、店内飲食が減少する一方で、人との接触機会の少ないテイクアウトやデリバリーサービスが増加するなど、消費者のライフスタイル・消費行動が激変しました。一方、インバウンド効果はなくなり、まだまだ回復の目途が立たない状況が続いております。また InstagramやLINE、Facebookなどを中心としたSNSを使ったコミュニケーションや、急速に浸透しているキャッシュレスのプロモーションが進化し、業態を越えた顧客の獲得競争が一層激化しています。

このような環境の下、当社ではサーティワンアイスクリームの永遠の経営モットーである“*We make people happy.*”「アイスクリームを通じて、お客様に幸せをお届けします。」をスローガンに、全てのお客様に高品質で美味しいアイスクリームと“FUN（楽しいこと、嬉しいこと、感動すること）”に満ちたひとときを提供し、日本で最も愛され親しまれるチェーンとなることを目指すとともに、企業の継続的成長の維持と、企業価値の増大に努めてまいりました。

新型コロナウイルス感染症拡大によるライフスタイルの激変を、逆にビジネス変革の機会と捉え、先ずお客様や従業員の安全を第一に考えた衛生管理の徹底として工場・店舗における感染防止に取り組むとともに、マーケティング戦略ではバリュー・プロモーションによる集客キャンペーンから持帰り商品中心の訴求への方向転換、デリバリーの拡充、デジタル・サイネージなど店舗のデジタル化、サプライチェーン・マネジメントの最適化、新たな立地における出店、また海外事業への挑戦として台湾やハワイへの出店など、環境の変化に順応したビジネスモデルの再構築を推進してまいりました。また新たなイメージ戦略として4月1日よりコーポレート・ロゴをリニューアルし、これに伴いパッケージも一新し、テイクアウト商品としてバラエティボックスを新発売しました。

当第3四半期累計期間の営業施策としては、毎月「フレーバー・オブ・ザ・マンズ」として専門店ならではの魅力的なアイスクリームを新発売し選ぶ楽しさを提供するとともに、お正月には「ポケモン バラエティパック」や「ハッピードール うし」、苺の季節に合わせた「フレッシュストロベリーサンデー」などを発売しました。冬場の来店頻度を高めるためオリジナルポーチをプレゼントする再来店プロモーションや、ひなまつりには「ミッキー&ミニー ひなだんかざり」を発売し、モバイルオーダーによる予約受付も実施しました。4月にはWEB上で「フレーバー総選挙」を実施し、50万票を超える票が集まり、5月9日「アイスクリームの日」に人気ベスト100位を結果発表し、メディアでも話題になりました。ゴールデンウィークには昨年よりイメージキャラクターとして起用しているHey!Say!JUMPの山田涼介さんをバラエティボックス6個入り箱にデザインしたスペシャルバラエティボックスを発売しました。6月には台湾のお土産として有名なパイナップルケーキをイメージした新フレーバーなど3種類の台湾テイストフレーバーを訴求するとともに、よりたくさんさんのフレーバーが楽しめるようトリプルポップのスクープ3個を最大10個まで増やせるポップスクープ・キャンペーンを実施しました。7月には柿の種で有名な亀田製菓株式会社とのコラボレーションを実施し、テレビの報道情報番組やSNSでも大変話題になりました。8月には「31ポケ夏!キャンペーン」、9月は「31 ENJOY PEANUTS」を実施し、イートインとテイクアウト需要の両方にお応えした親子で楽しめる新商品をたくさんラインナップし、売上の向上を図りました。アイスクリームケーキではアメリカン・ヒーローをテーマにデザインした“マーベル アベンジャーズ パレット6”など8種類を新発売し、商品ラインナップを強化いたしました。

コミュニケーションにおいては、480万人の会員を有する当社独自の会員制アプリ「31cLub」やSNSでの告知を強化して来店促進と売上の向上を図りました。

また、市場環境の変化に対応する店舗戦略として、新規商業施設への出店強化を継続するとともに、立地の多様性にも着目し、大学の学生食堂や社員食堂、野球場や行楽地、水族館やサービスエリアへの出店など消費者とのタッチポイントを増やすよう積極的に取り組み、当四半期末店舗数は1,222店舗と前年同期末に比べ19店舗増加となり

ました。

また、デジタル化推進の一環として、店頭でキャンペーンやお勧め商品を動画で発信する「デジタル・サイネージ」の導入による店頭強化を進めるため、店舗改装を103店実施いたしました。

緊急事態宣言やまん延防止等重点措置など、人流を抑えようという国を挙げての施策が当期間を通して続きましたが、前年同期に比べ休業店舗が大幅に減少し、集客キャンペーンから持ち帰り訴求へ販売戦略を転換したことも功を奏し、当第3四半期累計期間の売上高は142億24百万円（前年同期比107.3%）となりました。

売上原価は、生産体制の見直し及びコストコントロールを図ったことにより、61億80百万円（前年同期比102.3%）と売上の伸長に対して低い伸びに留まったため、売上総利益は80億43百万円（前年同期比111.6%）となりました。

販売費及び一般管理費は、マーケティングには効果的・積極的に資金を投じる一方、人流抑制のためオンラインによる会議を活用したことが会議費及び旅費交通費の減少につながるなど、全体としては68億19百万円（前年同期比103.4%）と低い伸びに抑えることが出来、営業利益は12億24百万円（前年同期比200.2%）となりました。

また、経常利益13億4百万円（前年同期比214.7%）、四半期純利益8億23百万円（前年同期比264.7%）となり、前年同期比で大幅な増益を達成することが出来ました。

ワクチン接種が進み経済活動の正常化の兆しが見られ始めるものの、感染症との戦いが終わったと受け止めるのは早計で、この冬には感染第6波を危ぶむ専門家の見解も存在します。しかしながら、当社の業績に与える影響は2021年度を通して現時点では限定的であり、店舗の一時休業や営業時間短縮などの対応を状況に応じて適切に取りつつ、営業活動への影響を軽微に留められるものと考えております。

なお、当社はアイスクリーム製品の製造及び販売等を行う単一セグメントのため、セグメント情報の記載を省略しております。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期末における総資産は前事業年度末に比べ7億58百万円増加の181億65百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加が22億15百万円、固定資産の減少が6億70百万円、売掛金の減少が2億68百万円及び未収入金の減少が1億87百万円あったことによるものです。

負債は前事業年度末に比べ2億73百万円増加の79億28百万円となりました。これは主に、預り金の増加が2億24百万円あったことによるものです。

純資産は前事業年度末に比べ4億85百万円増加の102億37百万円となりました。これは主に、四半期純利益により繰越利益剰余金が増加したことによるものです。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期業績予想につきましては、2021年2月5日公表の「2020年12月期決算短信〔日本基準〕（非連結）」から修正しております。詳細につきましては、2021年9月21日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,628,748	4,843,850
売掛金	1,965,290	1,697,103
製品	880,898	843,540
原材料	467,877	322,522
貯蔵品	305,014	264,855
前渡金	190,772	68,944
前払費用	251,709	259,214
未収入金	357,504	169,942
その他	92,888	100,342
貸倒引当金	△83	△87
流動資産合計	7,140,621	8,570,229
固定資産		
有形固定資産		
建物	4,175,020	4,185,960
減価償却累計額	△1,971,072	△2,090,849
建物(純額)	2,203,947	2,095,110
構築物	437,700	437,700
減価償却累計額	△252,710	△266,605
構築物(純額)	184,989	171,095
機械及び装置	4,116,172	4,142,178
減価償却累計額	△2,973,388	△3,142,834
機械及び装置(純額)	1,142,784	999,343
賃貸店舗用設備	4,858,303	4,755,652
減価償却累計額	△3,003,443	△3,138,209
賃貸店舗用設備(純額)	1,854,860	1,617,442
直営店舗用設備	92,407	95,369
減価償却累計額	△62,708	△26,054
直営店舗用設備(純額)	29,698	69,314
車両運搬具	58,815	63,330
減価償却累計額	△35,371	△38,192
車両運搬具(純額)	23,443	25,137
工具、器具及び備品	680,907	699,920
減価償却累計額	△548,883	△578,379
工具、器具及び備品(純額)	132,023	121,540
土地	695,362	695,362
建設仮勘定	9,811	6,733
有形固定資産合計	6,276,921	5,801,081
無形固定資産		
ソフトウェア	556,367	436,597
ソフトウェア仮勘定	1,000	7,470
電話加入権	17,065	17,065
無形固定資産合計	574,432	461,132

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2021年9月30日)
投資その他の資産		
投資有価証券	78,298	79,533
その他の関係会社有価証券	435,461	435,461
従業員に対する長期貸付金	778	49
破産更生債権等	107,702	77,869
長期前払費用	407,189	403,972
繰延税金資産	184,781	185,058
敷金及び保証金	2,207,101	2,153,948
その他	16,475	16,475
貸倒引当金	△22,548	△18,844
投資その他の資産合計	3,415,241	3,333,524
固定資産合計	10,266,595	9,595,738
資産合計	17,407,217	18,165,968

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	486,084	422,503
1年内返済予定の長期借入金	230,012	230,012
未払金	1,590,737	1,509,103
未払費用	71,592	66,615
未払法人税等	209,411	323,272
未払消費税等	54,548	120,962
前受金	1,930,497	1,981,174
預り金	161,463	385,804
賞与引当金	57,032	129,643
役員賞与引当金	26,000	42,000
資産除去債務	4,242	-
その他	50,458	65,216
流動負債合計	4,872,080	5,276,307
固定負債		
長期借入金	1,204,106	1,031,597
退職給付引当金	92,711	114,200
役員退職慰労引当金	89,200	96,625
資産除去債務	120,401	129,578
長期預り保証金	1,276,309	1,279,888
固定負債合計	2,782,728	2,651,889
負債合計	7,654,808	7,928,196
純資産の部		
株主資本		
資本金	735,286	735,286
資本剰余金		
資本準備金	241,079	241,079
資本剰余金合計	241,079	241,079
利益剰余金		
利益準備金	168,676	168,676
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	32,177	32,177
別途積立金	4,140,000	4,140,000
繰越利益剰余金	4,453,756	4,939,746
利益剰余金合計	8,794,610	9,280,600
自己株式	△17,235	△17,235
株主資本合計	9,753,740	10,239,730
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△1,331	△1,958
評価・換算差額等合計	△1,331	△1,958
純資産合計	9,752,408	10,237,771
負債純資産合計	17,407,217	18,165,968

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2020年1月1日 至2020年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自2021年1月1日 至2021年9月30日)
売上高	13,250,696	14,224,024
売上原価	6,043,900	6,180,186
売上総利益	7,206,795	8,043,837
販売費及び一般管理費	6,595,048	6,819,042
営業利益	611,747	1,224,794
営業外収益		
受取利息	300	48
為替差益	-	10,704
店舗用什器売却益	17,226	55,125
受取ロイヤリティー	8,766	13,591
助成金収入	-	21,116
その他	10,427	9,587
営業外収益合計	36,720	110,174
営業外費用		
支払利息	10,871	9,252
店舗設備除去損	29,736	18,308
その他	103	2,753
営業外費用合計	40,712	30,315
経常利益	607,755	1,304,654
特別利益		
固定資産売却益	-	238
特別利益合計	-	238
特別損失		
固定資産売却損	1,060	-
固定資産廃棄損	40,269	22,225
特別損失合計	41,330	22,225
税引前四半期純利益	566,424	1,282,666
法人税等	255,469	459,420
四半期純利益	310,955	823,246

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

当社は、従来、ギフト券発行時の入金を前受金として計上し、未使用のギフト券については失効時又は一定期間経過後に前受金を取り崩し営業外収益に計上し、収益に計上した未使用のギフト券について将来の回収時に発生する損失に備えるため、過去の実績に基づく将来の回収見込額をギフト券回収損失引当金として計上しておりました。

しかし、当事業年度を開始とする長期経営計画において、自社プロモーションに加え他企業及び他団体とのコラボレーションも店舗への集客の柱と考え、アイスクリームギフト券の販売を他の企業を巻き込んだ販売形態の一つとして位置付け、販売を強化したことを契機に、第1四半期会計期間より失効金額又は一定期間経過後使用されないと見込まれる金額を売上高に計上する方法に変更しております。

この結果、遡及適用を行う前と比べて、前第3四半期累計期間の営業外収益に計上されていた販売済未使用ギフト券収入が86,302千円減少し売上高及び営業利益が同額増加しておりますが、経常利益及び四半期純利益への影響はありません。

また、1株当たり情報及び表示期間より前の期間に関する会計方針の変更による遡及適用の累積的影響額に影響はありません。なお、前事業年度末のギフト券回収損失引当金が296,704千円減少し前受金が同額増加しております。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当事業年度の予想税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前当期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。